

## 0、はじめに

「幸福度」は多くの人に関心のあるトピックだと思います。たくさんの偉人も幸福について自らの考えを幸福論としてまとめてきました。私も「幸福とは何か」に興味がある1人です。私は、いつか幸福を科学的に解明できたらと思っています。

## 1、留学のきっかけ

### ①経済的豊かさは幸福度とは相関関係があるのかという疑問

私は、1年生の夏休みに2か月間ラオスに留学しました。ラオスは経済的に貧しいのですが、幸福度が日本よりも高いことを知り、国による幸福度の差はどこからくるのか疑問に思いました。国による幸福度の差はどこからくるのかを知ること、これから社会にでたとき私たちがすべきことは何かが見当がつくと考えました。

### ②音楽と幸福度の関連性

また私は、幸福度といったら音楽は切っても切り離せない存在だと思います。というのも、高校生のときからオペラそしてミュージカルに関わってきました。音楽をしている人は皆幸せそうにみえますし、私自身も音楽をしていることで幸福を感じます。音楽の種類によって感じ方は変わるのかなどに興味がありました。

上記の2つがきっかけとなり、留学をして音楽や幸福度のことを学ぶことに興味を抱きました。

## 2、留学の目的

### ①自分なりの考え方を確立すること

私は大学では工学を専攻しています。専門的な勉強は始まっていなかったのですが、広く工学を学んでいるなかで、研究には発想力が大切なのだと感じました。また4年生になり研究が始まれば英語の論文を読む必要があります。技術者になるうえで身につけておいた方がよい英語と自分なりの発想力を高めることを目標に掲げました。

### ②音楽と福祉を融合すること

どこにいても、幸せではないひとは少なからずいると思います。そこで音楽が人を元気にする力を利用することで関わるすべての人が幸せになるように活動がしたいと思いました。

## 3、留学先での学習・活動と生活の環境

7月下旬から世界各国でミュージカルの公演を行うアメリカのNPO団体「Up with People」に所属し、5か月間活動しました。その後12月の下旬からカンボジアの日系IT企業でのインターンを3か月間実施しました。

### ①アメリカのNPO団体「Up with People」に所属、活動（5か月間）

#### ・留学先での学習と活動

デンバーでの1か月のトレーニングの後、約5カ国、20近くの都市に移動し、各コミュニティで約1週間を過ごしました。平日は、ボランティア活動・教育ワークショップを通じてさまざまな文化について学びます。土曜日の夜には、1週間お世話になったコミュニティに

向けて音楽を届けました。私は、音響アシスタントとして活動しながら、各留学先国でインタビューを行い、音楽と幸福度の関連性を調査しました。

- ・生活環境について

毎週違うコミュニティへ移動していたので生活環境は毎日変化しました。

初めのうちはストレスに感じることもありました。しかし、それを繰り返していると慣れ、毎週感じられる様々な違いを楽しむことができました。

## ②カンボジアの日系 IT 企業でのインターン (3 か月間)

- ・留学先での学習と活動

インターン先では、3D ドームシアターを使った新規事業を主に進めました。カンボジア人と一緒に仕事を進める中で、カンボジア人の特性を知ることができました。

- ・生活環境について

日本に比べて清潔さは劣っていましたが、新興国での生活は2度目だったので問題なく過ごせました。胃腸を壊すような食べ物にあたることもありませんでした。住居は、インターン先の社員寮を提供していただきました。1人部屋を用意していただけたので、十分リラックスできる時間はありました。

## 4、1週間あたりのスケジュール

上記と同様の順番で1週間あたりのスケジュールを紹介します。

### ①アメリカのNPO団体に所属、活動

毎週違う都市に移り、活動をしました。

月曜日：次のコミュニティへ移動

火曜日：コミュニティを知る、学習

水曜日：コミュニティでの奉仕活動、学習

木曜日：コミュニティでの奉仕活動、学習

金曜日：土曜日のショーに向けた設備の設置

土曜日：ショーデー

日曜日：ホストファミリーと過ごす休日

### ②カンボジアの日系 IT 企業でのインターン

月曜日から金曜日は、8時に出社し17時まで勤務し、17時以降は残業またはカンボジア在住外国人のイベントに参加していました。土曜日は、8時から12時まで勤務し、午後からは残業したりカンボジアを観光したりしました。日曜日は、マッサージなどカンボジアを満喫しました。

## 5、印象に残った留学中のエピソード

アメリカのNPO団体に所属して活動していたときは、毎週違ったホストファミリーにお世話になっていました。そのなかでも一番印象的なホストは、イタリアで1人で暮らしている中年の男性です。その男性は全く英語が話せないのですが、いつも Google 翻訳を使い話しかけてくれました。私は留学初期、英語が上手く話せないことを後ろめたく感じ、会話に入ることが苦手でした。ですからホストの話せないことに動じることなくコミュニケーションをとる姿には感銘を受けました。その後にカンボジアで滞在している時は、カンボジア人に Google 翻訳を使って積極的にコミュニケーションをとりました。話せないことは恥じるこ

とではありません。真摯にその人のことを知りたいという姿勢を保つことが大切だと実感しました。

## 6、留学して学んだこと

- ・日本で生活していた時は知らなかった国際的な問題

アメリカのNPO団体に所属していたときには毎週異なるテーマのワークショップが用意されていました。環境問題、人種差別、女性の権利、難民問題、メンタルヘルス、世界共通言語としての英語など、。日本人の自分としては考えたことのなかったものの側面を知ることができました。

- ・自分の当たり前が他の人にとっても当たり前のことだと思わないこと

様々な経験で人はできているのは自明です。留学中は、「人はみんな違う」ということを強く実感しました。他人の価値観は、自分の経験では理解できないこともありました。ですから、疑問に思ったことは質問することがコミュニケーションのなかで大切だと学びました。

## 7、語学がどのくらい上達したか

まだ公式な英語力測定テストは受験を出来ていないのですが、リスニングとスピーキング力が向上を実感します。TOEICの練習問題を解いてみたところ、リスニングの正答率が約9割でした。留学中の自分の頑張りが数字で表されたことがとても嬉しかったです。もちろん留学せずとも英語の勉強はすることができます。しかし、今回の留学で外国語の面白さをさらに知ることができ勉強するモチベーションも向上しました。留学中は、英語を書く機会は少なかったのでこれからの大学生活でリーディング力を向上させたいと思います。

## 8、留学を薦める理由

- ・異文化への興味が深まる

留学先では他国の留学先にも出会うことが多いです。話をして、文化を知ったり教えたりしていくなかで、日本との違いをたくさん感じました。興味の対象が増えて、自分の世界が広がりました。

- ・自分の自信につながる

自分の目標に向かって長期間努力したことは、自分の自信に繋がっています。「海外に一人で身を投げて困難も乗り越えてこれた」という経験を得ることができました。

## 9、トビタテで留学して良かったこと

- ・留学前後の研修が充実していること

事前研修では、全国の大学生と丸々2日間自分の留学をブラッシュアップする講義を受けました。たった2日間ではありましたが、厳しい審査を受けて合格した同志ということもあり腹を割った話し合いができました。とても充実した研修で満足しています。

- ・コミュニティが豊富

留学中にもFacebookのコミュニティでの交流があります。世界中で頑張っている仲間がいることを感じることでモチベーションが維持できました。また、留学後もオンライン・オフラインでのイベントが多くあります。

## 10、終わりに

私がトビタテを知ったのは高校2年生のときです。トビタテ高校生コース1期生の先輩の経験談を聞いたことがきっかけです。留学とは、英語が話せるようになるためだけのものだと思っていた私にとって、自分の学びたい留学を実現させてくれるトビタテはとても魅力的に感じました。大学に入学し、念願のトビタテ留学を果たせて大変嬉しいです。先生方、トビタテOBOGの皆様のご協力がなければ、留学を実現することは出来なかったと強く思います。ですので、トビタテ留学 JAPAN の募集が再開したとしたら、私も挑戦したいと思う人に積極的に協力させていただきたいです。



ミュージカルの会場設営の様子



インターン先で報告している様子